

絶えぬ改善と教育で「温故創新」



川島整形外科病院 理事長
川島 真人氏

なつて「患者さんを中心を支え合う医療」の実践に心を砕いている。

企業の取り組みを参考に、昨年はスタッフ全員が明確な目標を定めて医療に集中できる体制を整備した。今秋には新病院も完成。環境に配慮した省エネシステムを採用し、昨年1月に開院したかわしまクリニクと同様、患者のプライバシーにも配慮した設計となる。

医療の提供にとどまらず、社会貢献にも熱心。昨年は東日本大震災の被災地・宮城県塩釜市を訪問した。同市の物産を購入するなど、さまざまな形で支援を続けている。7月に中津市を水害が襲った時には、耶馬溪を訪問して被災者に「苦楽吉祥」と記したタオルを配った。「苦しみを乗り越えてはじめて本当の楽しみがある」という言葉に、復旧への励ましの思いを込めている。

昨年11月に社会医療法人となつて以来、これまで以上に「病院は公のもの。社会のためである」という意識を強めている。「地域や住民、患者さんから評価され、信頼される医療、介護を目指します。絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上していきたい」と決意を新たにしました。

まで、地域のニーズにこたへ、一貫したシステムを持つ川島整形外科病院。難治性の骨髄炎や糖尿病による足の壊疽に対して、高気圧酸素治療とオゾンナノバブル水の併用療法を実施するなど、最先端の医療を中津の地で実践している。

週2回開かれる朝のカンファレンスには医師だけでなく看護師など全スタッフが参加し、情報を共有する。病院が一丸と

られる川島理事長は、「温故創新」という言葉を大切にしている。

「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」とは江戸時代の中津藩医、大江雲澤（えんたく）の言葉。「医は仁ではなく極めて危険な術。だからこそ医療に従事する者は絶えず努力しなければならぬ」。先人の教えをしっかりと学び、新しい形の地域医療を懸命に創り出している。



秋に完成予定の新病院イメージ図



社会医療法人 玄真堂
川島整形外科病院

社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院
中津市宮夫14-1
TEL(0979)24-0464
<http://www.coara.or.jp/~gensin>